



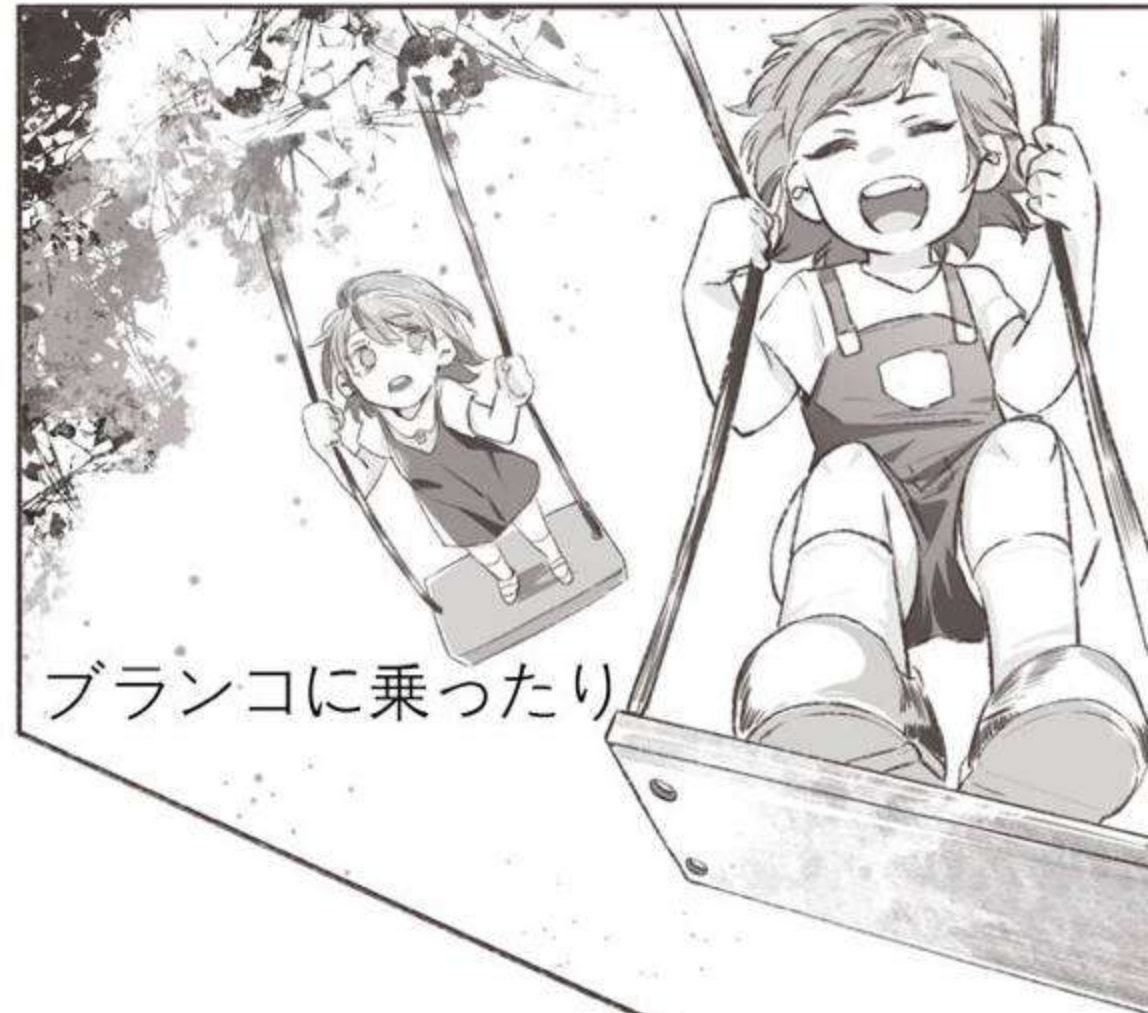
恋の色を
その中に
林めら
れるなら



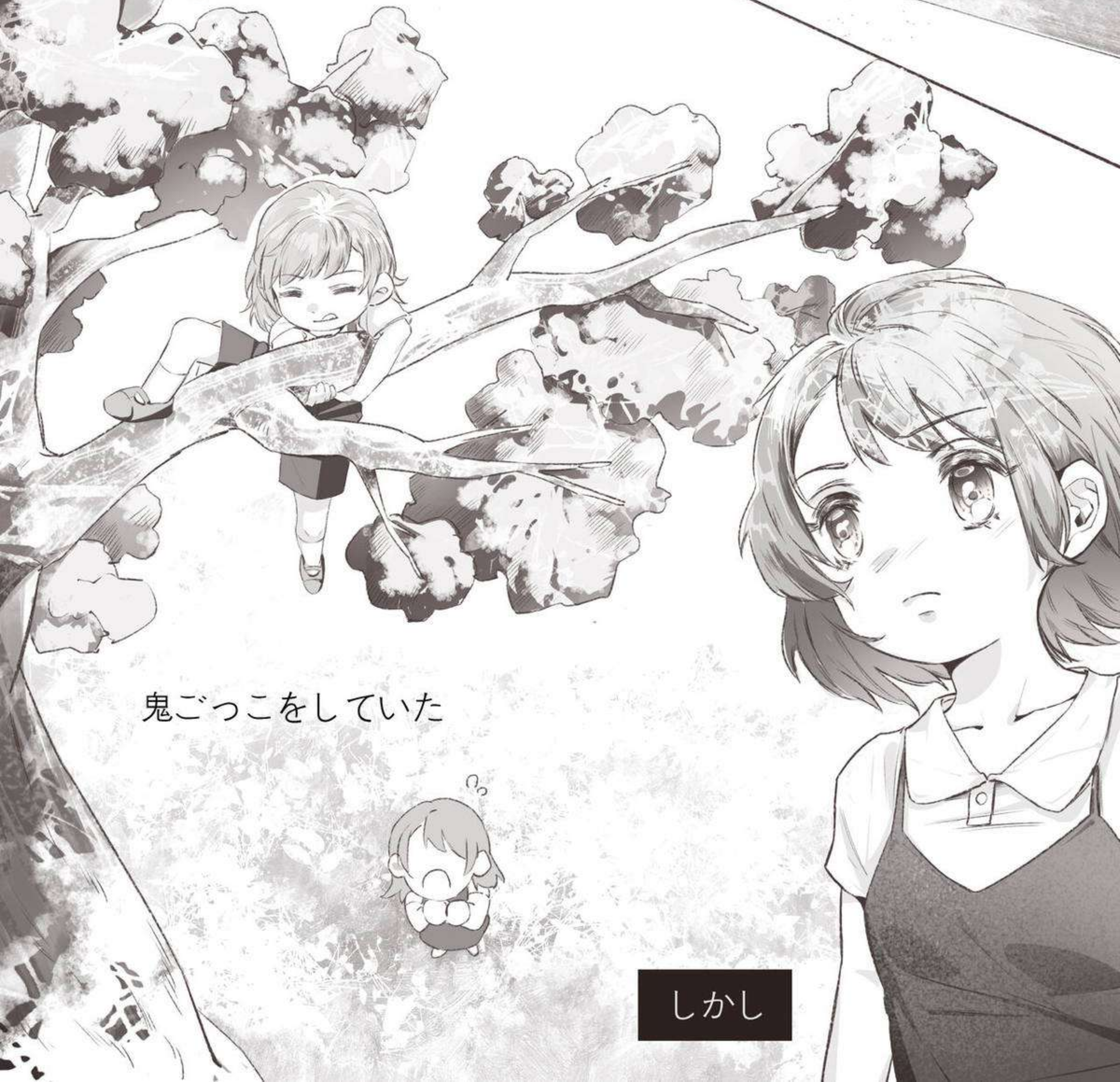
子供の頃

日菜はいつも私と一緒にいて
ずっとくっついていて

小さな私たちは一緒に絵本を読ったり



ブランコに乗ったり



鬼ごっこをしていた

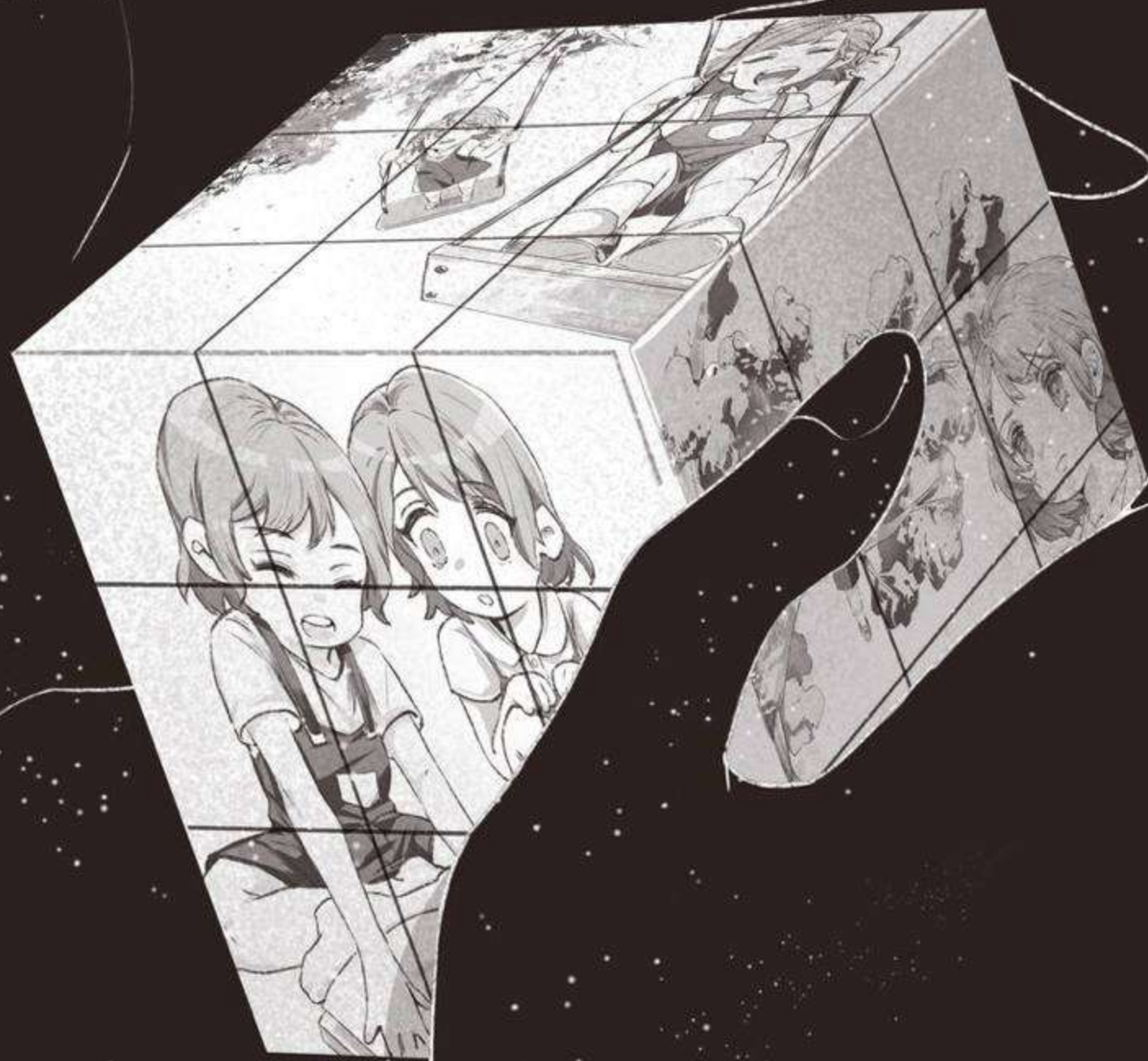


しかし

いつからののでしょうか？

日菜が本を読むとき

なぜかいつももっと質問ができることに気づいたかしら？



ブランコで私よりも高く揺れるのかしら？

それとも、私が届かない場所に行けるのかしら

一時は、埋められないほどの距離感があるけど



奇跡の繰り返しで再び私たちを結びつけてくれた

純粹に嬉しいはずなのに



ただ
なぜ最近

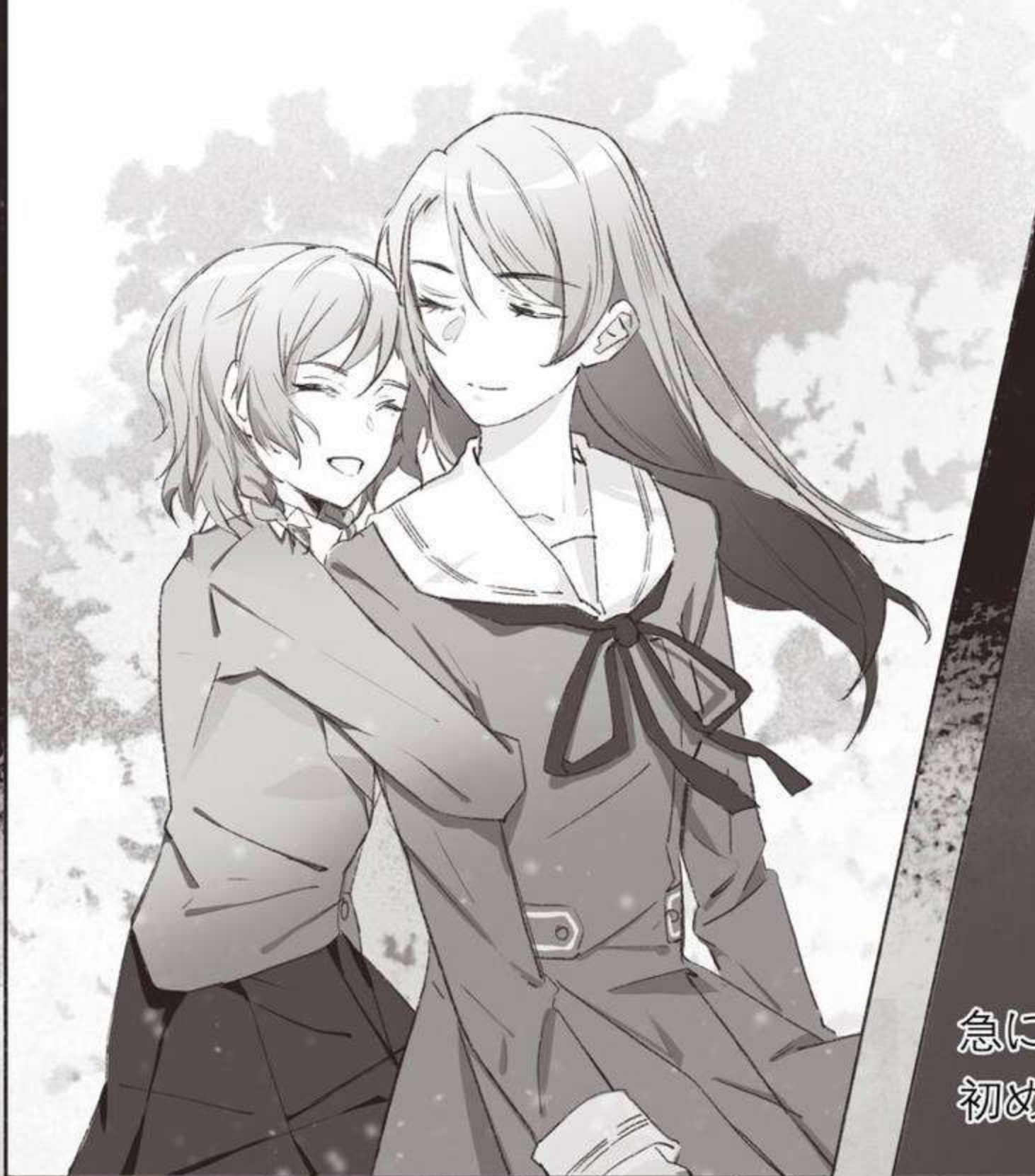


こんなに迷ってしまうのでしょうか



高二のとき仲直りして以降

Ωの言葉は、たぶん私のフェロモンに頼るからか
子供の頃よりも私に寄り添ってくる事が多くて



急に私の部屋に寝に来ることも
初めてではない



でも、そういうときはいつも緊張してしまう



日菜の発情期前後の匂いは



私の理性を揺さぶってるもの



αとして
距離を取るべきだとわかっている



日菜

でも、これは過去にあの子との関係が疎遠になってしまって
申し訳ない気持ちになったせいかな

お風呂に入るよ



あの子が親しげに近づいてくるたび

うん

おねーちゃんも一緒に入らない？

私…



衝動を抑えて

私…

まるで影響を受けていないように
フリすることしかできない

なら…

でも、今の目菜が寝ている状況に



これ以上自分を甘やかしてこの子のそばにいるのは良くない



仕方ないですが
ベッドはこの子に
譲ってあげる方が...



え？





!?

日菜?! ...

なんで急に押し付けてくるのよ?

身体が...あまりにも密着しすぎて...

待って

そこ...

あの子がまたそんな風に
無邪気に私の心を乱させる



お、ねー、ちゃ……
……おね……

はあ

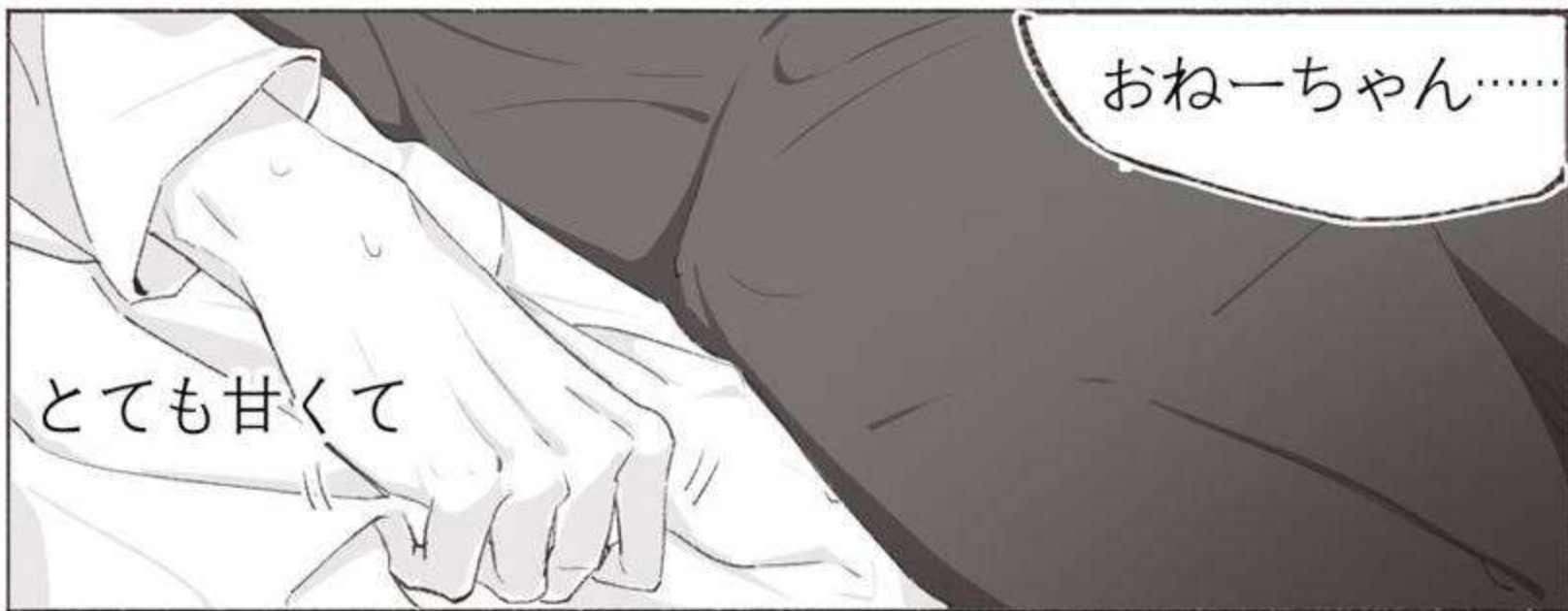
は



日菜の声と湿った呼吸が
共に耳に広がっていく

こすこす

……ちゃん

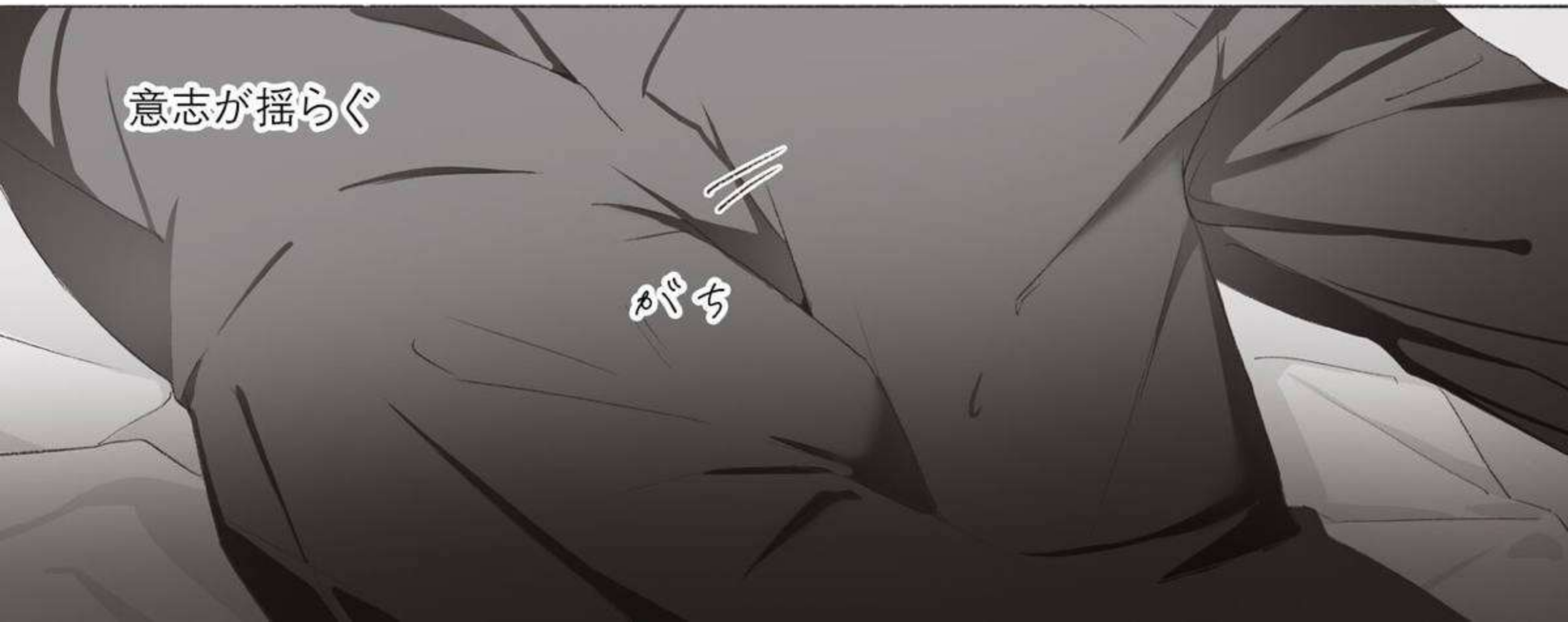


おねーちゃん……

とても甘くて



ただ聞いているだけで



意志が揺らぐ

がずち



もっとまずいことに



これは...



あまりにもリラックスしすぎたかしら?
今さら気づいた



日菜のフェロモン



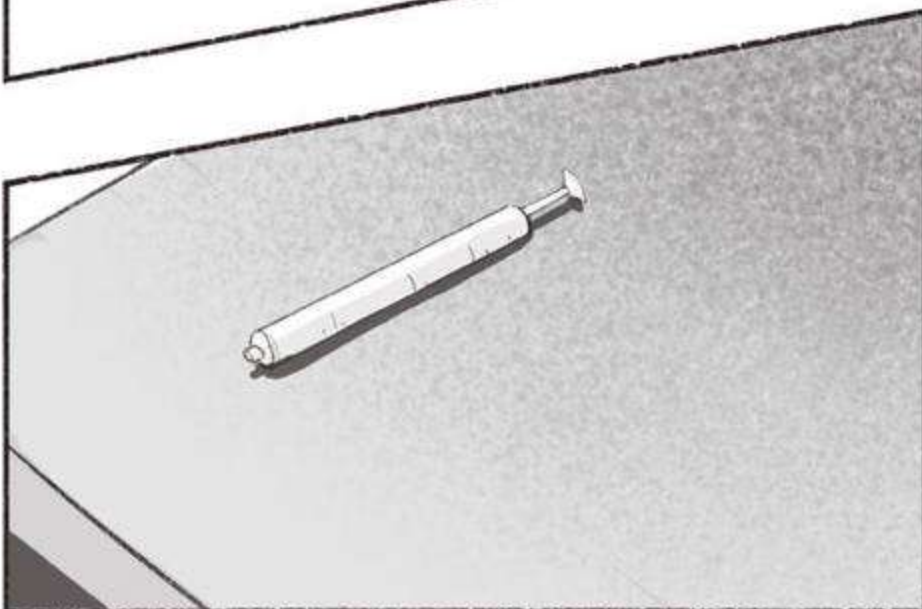
まさか発情期が
早まったのでしょうか?

冷静にならないといけない



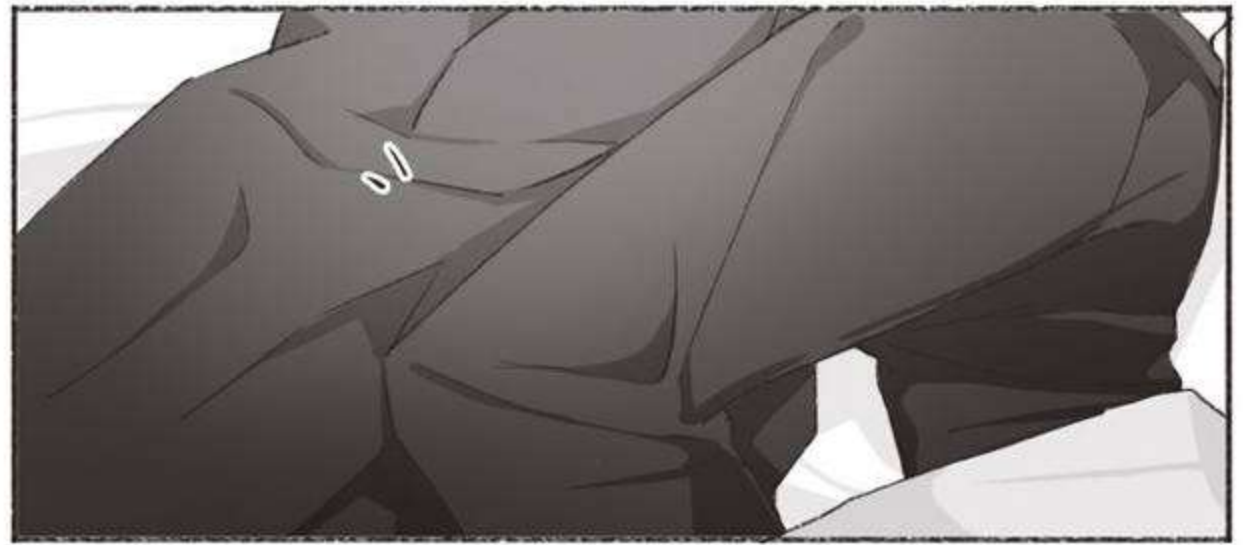
少なくとも、信頼してくれる妹に対してコントロールを失いたくない

抑制剤…
これは？



ぎゅと

え？

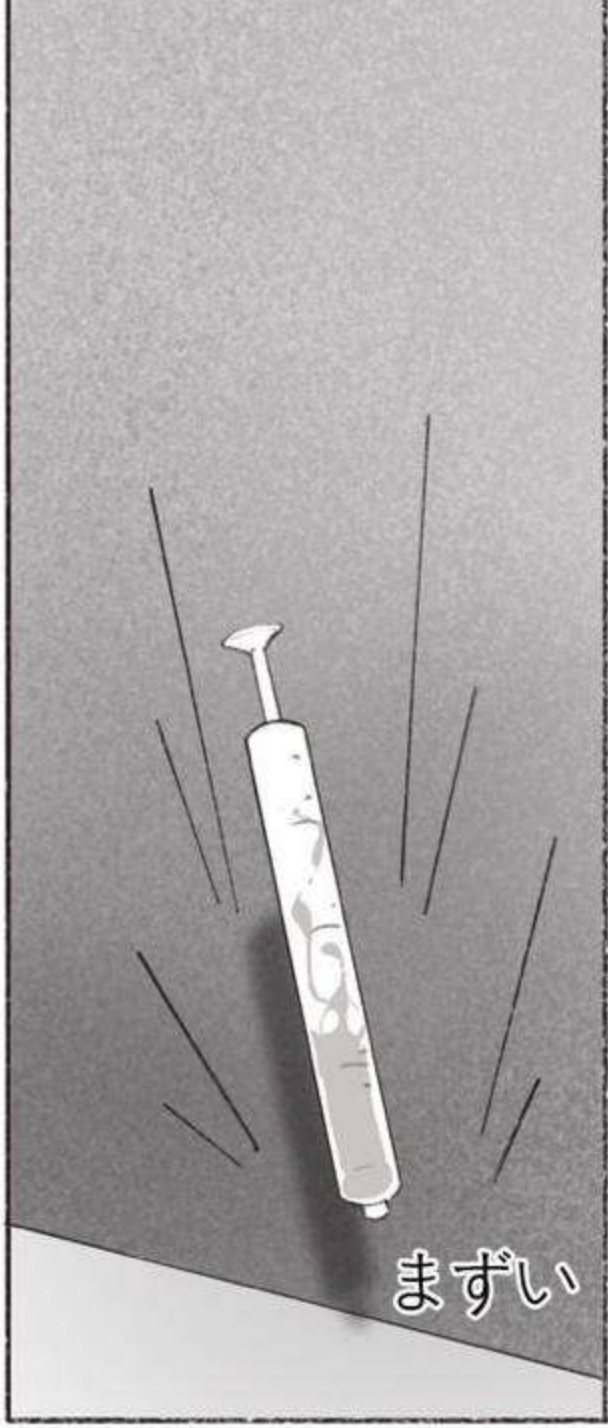


……日菜？！

押し付ける

でも





まずい



割れる



は

理性が薄れ始める



日菜のフェロモンがますます漂う

だめ

そこが密着して擦れる感触
我慢できないほど……



遠まっている

だめ

身体はまるで制御を失っているかのよう
日菜に引き寄せられている



くく

だめ……

でも、これは本当にフェロモンのせいだけなの？



おねー...
ちゃん...

おねー...
ちゃん...

う

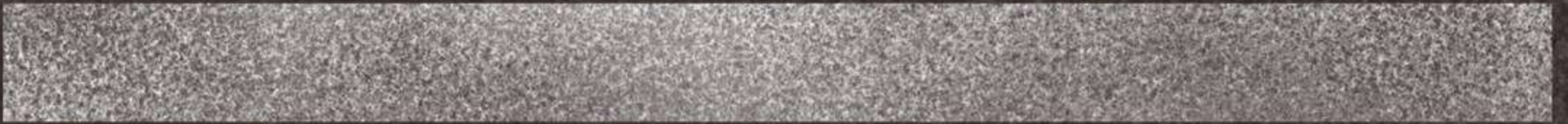
おねー...
ちゃん...

直面したくなくても
心臓は高鳴っている
あの子の声と共鳴して

認めたくなくても
おそらく、私はずっと前から



あの手の届かない遥かなものを……



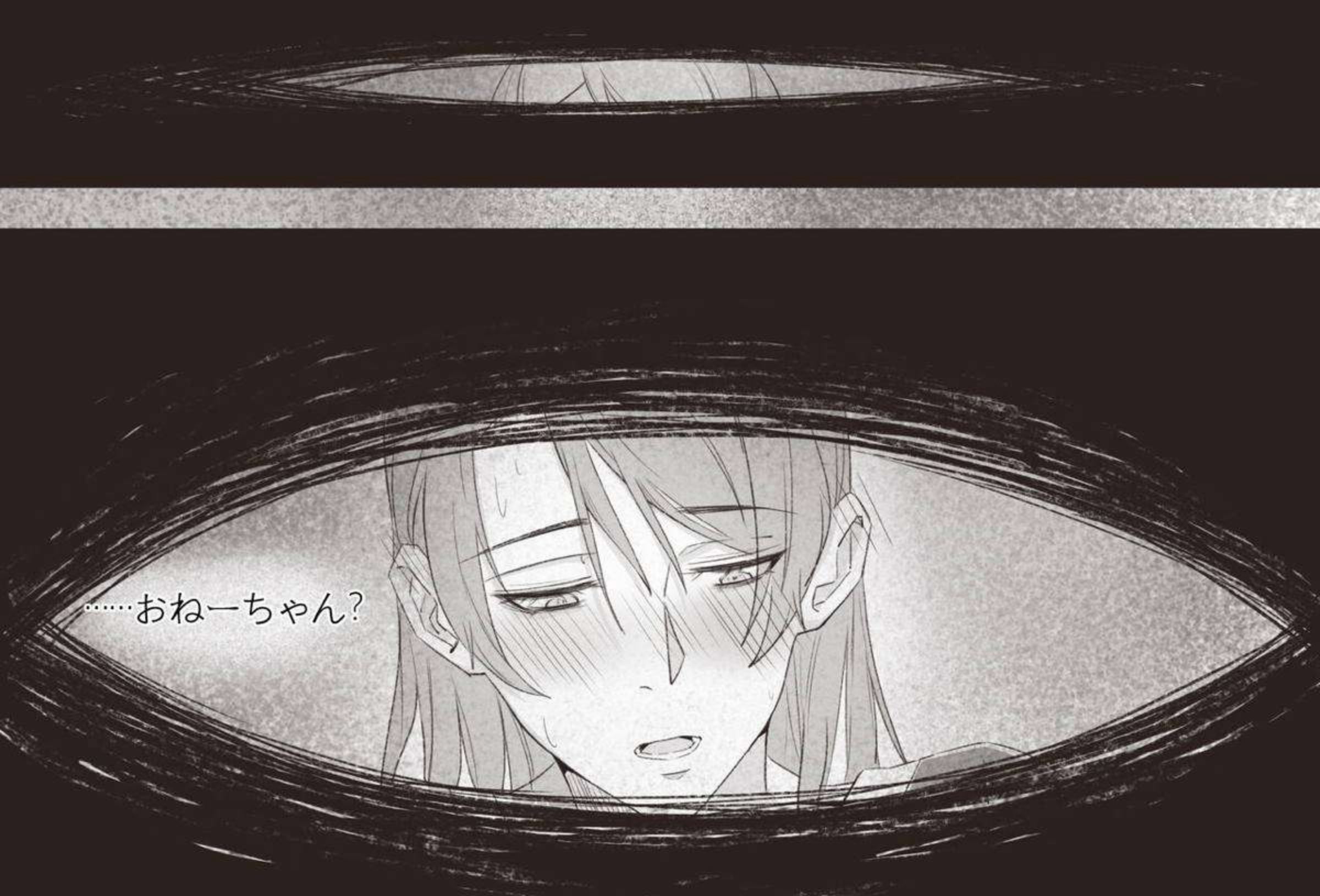




体が熱い、変だな
発情期が来るせいかな？

今、あたしは…





……おねーちゃん?



そこから伝わる熱い感触



夢かな?

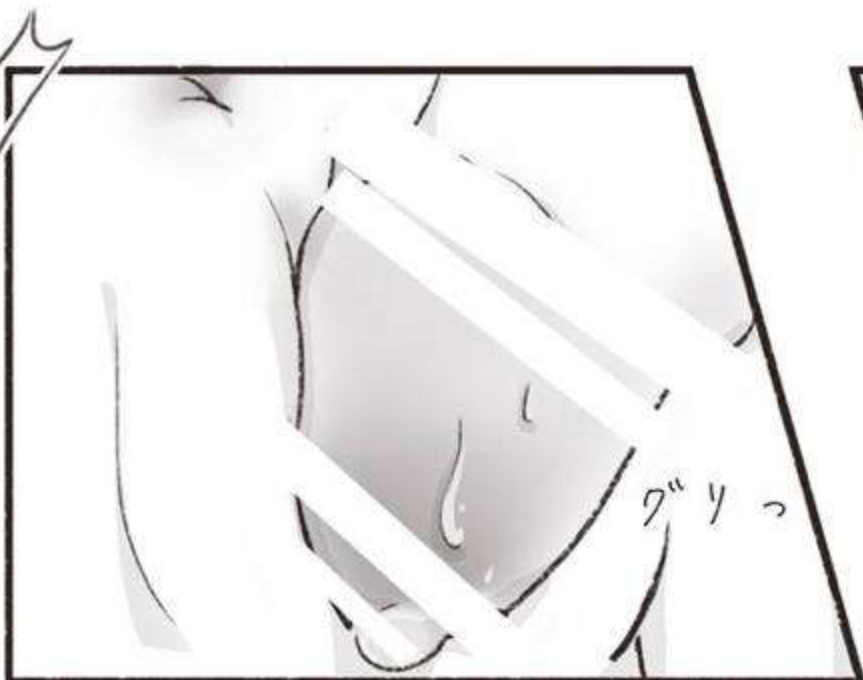
こんなに熱烈なおねーちゃん
夢に違いない

頭がぼーっとして
なぜ夢の中でも発情期があるんだろう？

触れ合う時の体温と一緒に
おねーちゃんの息遣い

お腹の奥の焦げつくような痛み

全てが真実のように見える



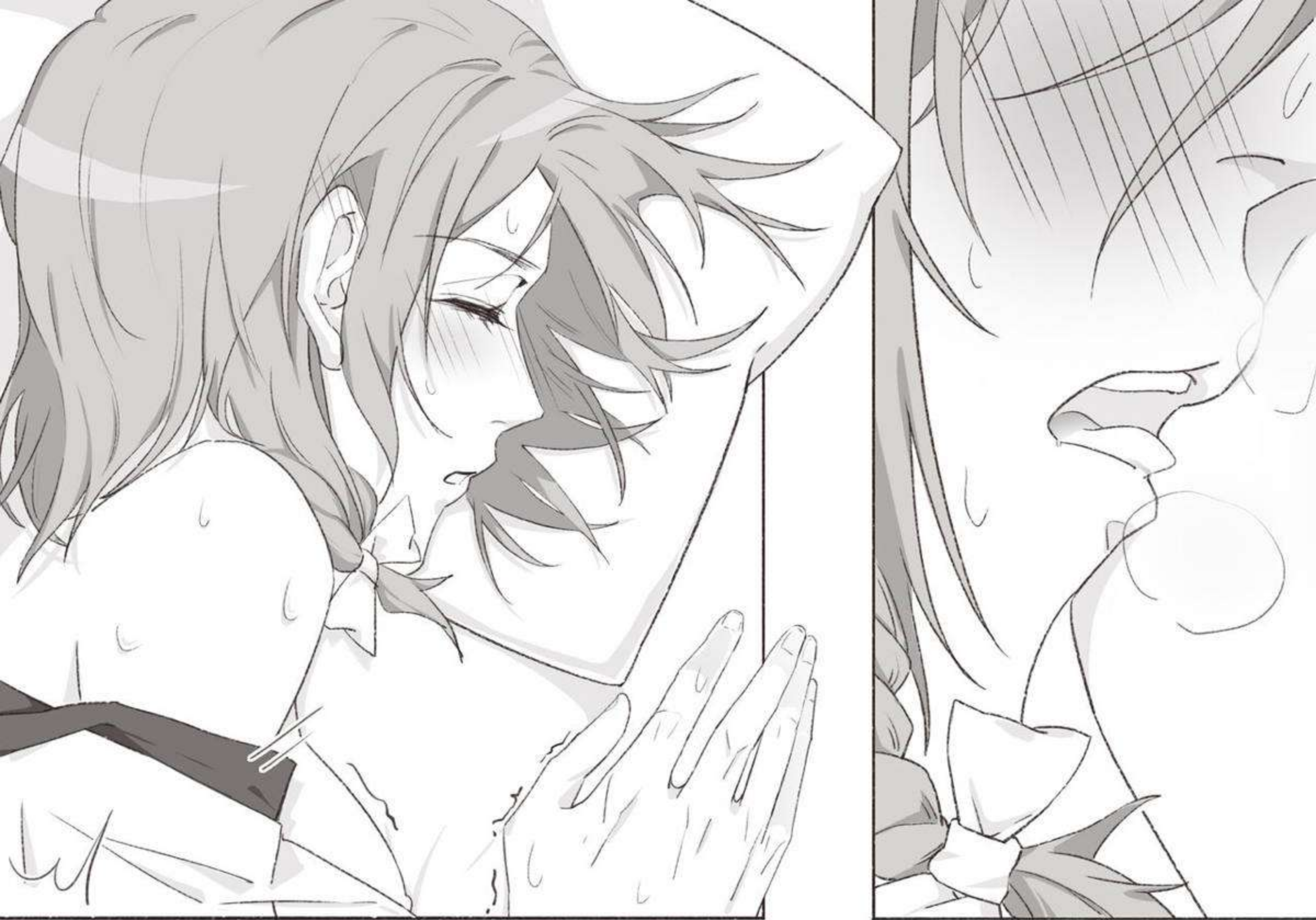
明らかに夢なのに、ベッドの下にいるおねーちゃん

洗濯後の香りまで現実と同じ

でも…これは絶対に夢

夢だからこそ、おねーちゃんにこう触れられるかも





夢だからこそ、おねーちゃんにこう奥まで入れられる





現実では



ぬちや



引き抜き



経験したことのない

おねーちゃんにこうやって満たされる感触

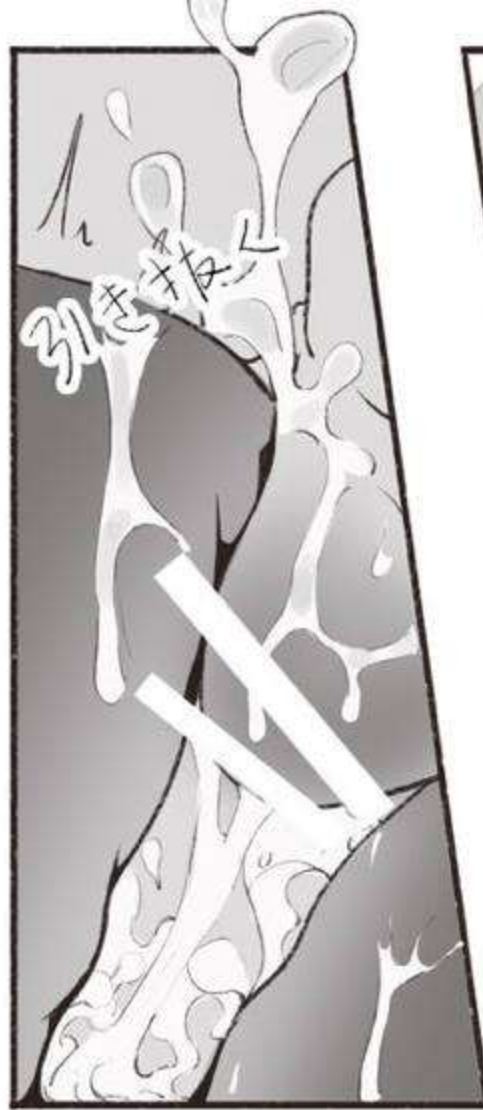


せゅ

熱い



お腹の奥…まるで溶けてしまいそう



夢……終わるはずだよ

おねーちゃんが起き上がった

あたしも目を覚ますのかな？

不思議

体はふんわりして、下はまだびくびくしている

お腹の奥で、その痛みと虚ろな感じがまた現れたんだ

……ん？

がちゃ

（あ）





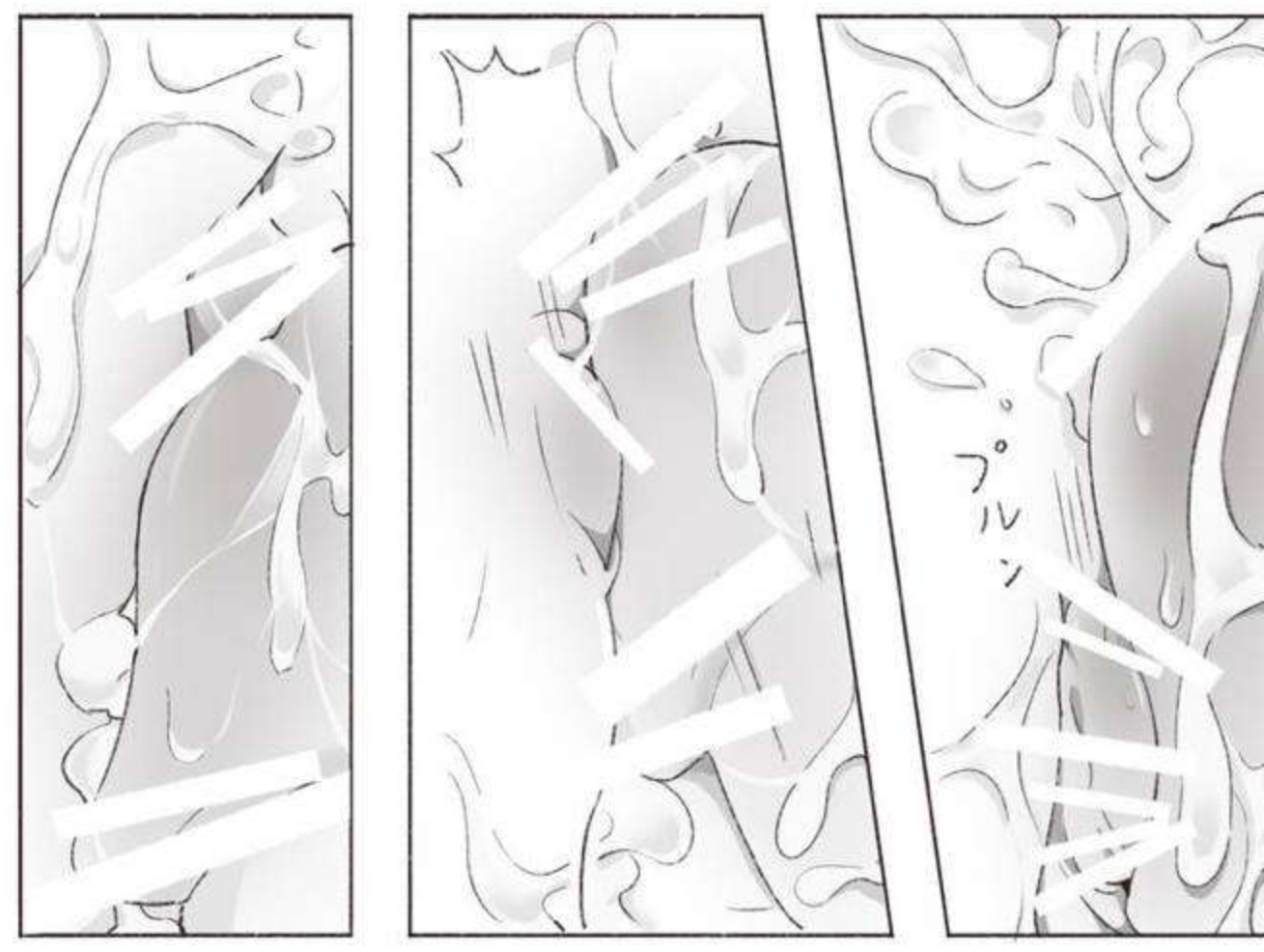
こんなに……おねーちゃんを直接感じて



日菜

は

日菜



プルン

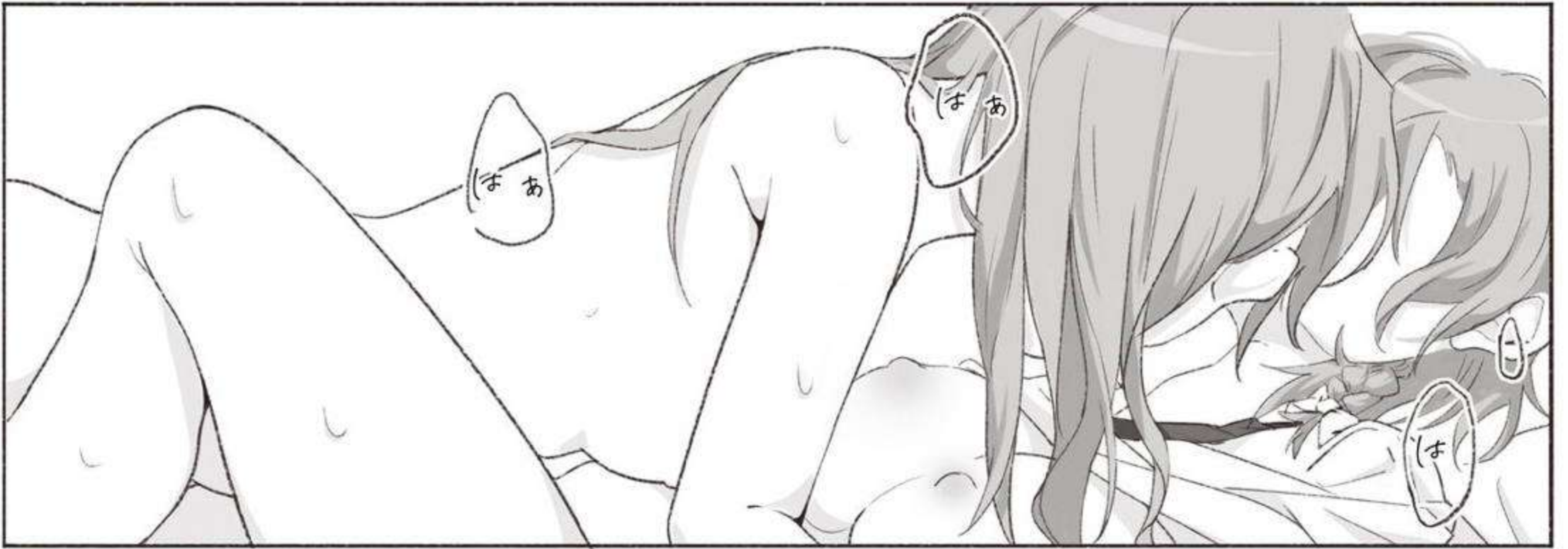


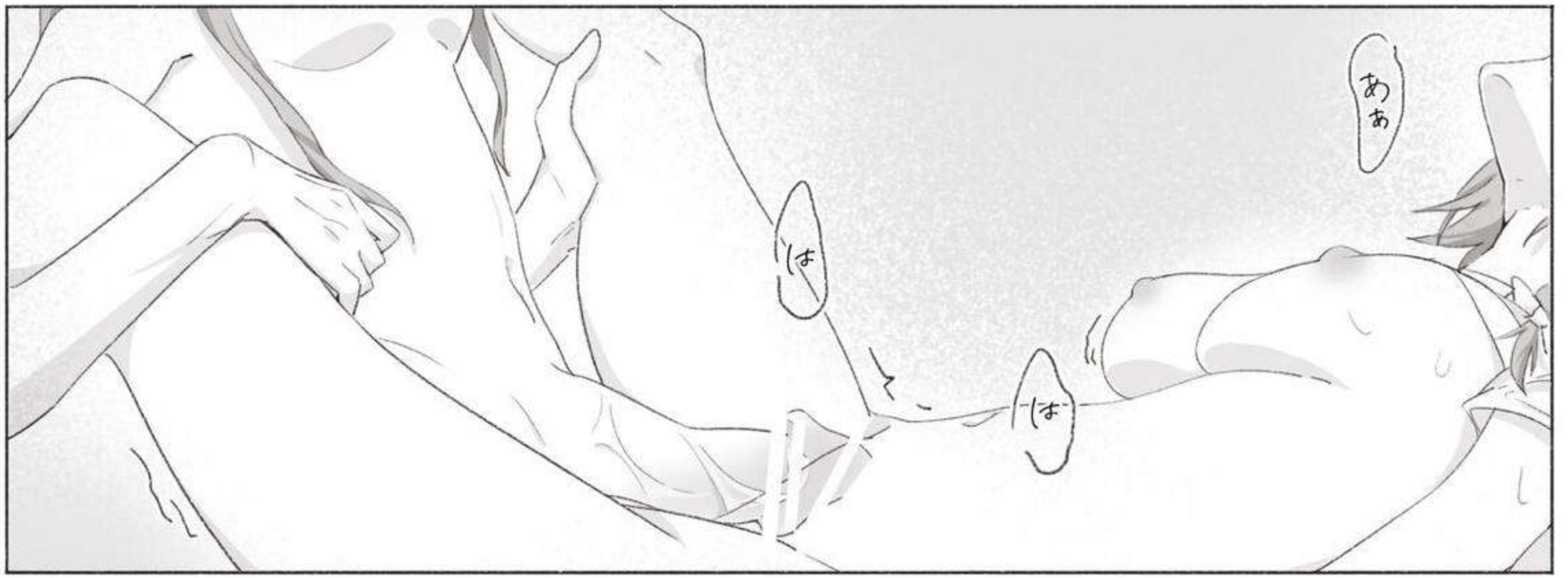
まるで本当に求められているみたい



それが過去の隔たりから

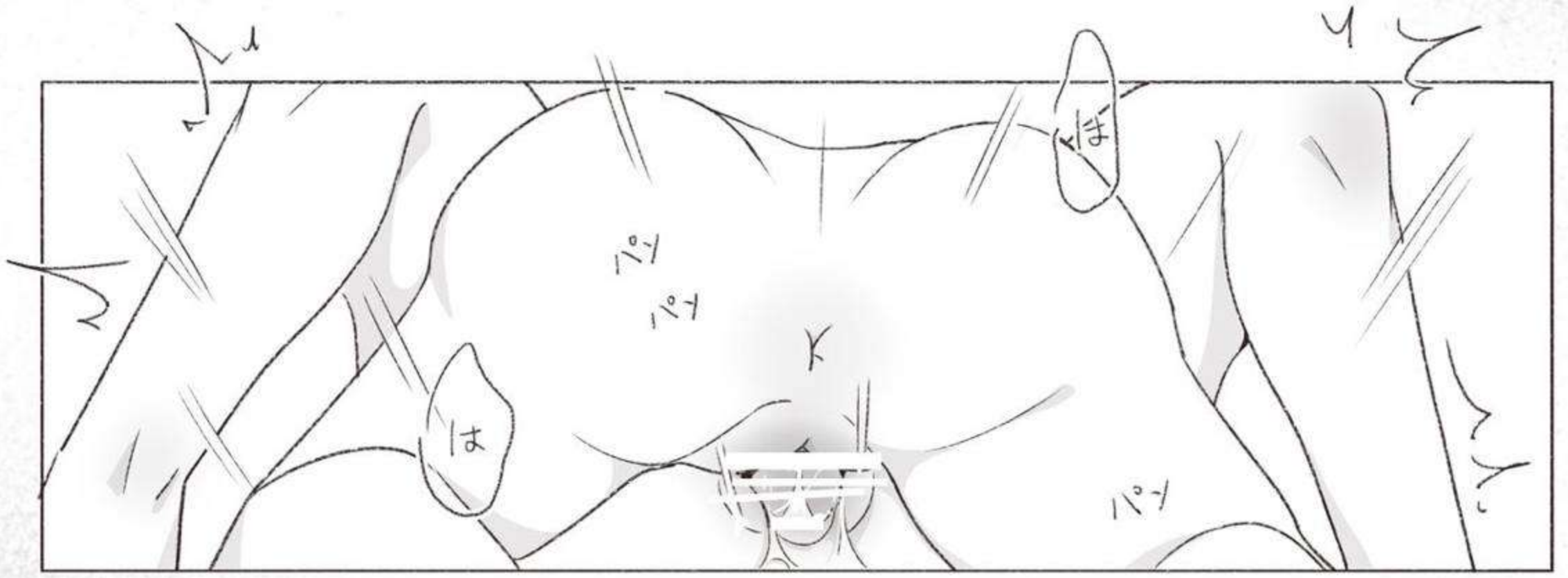








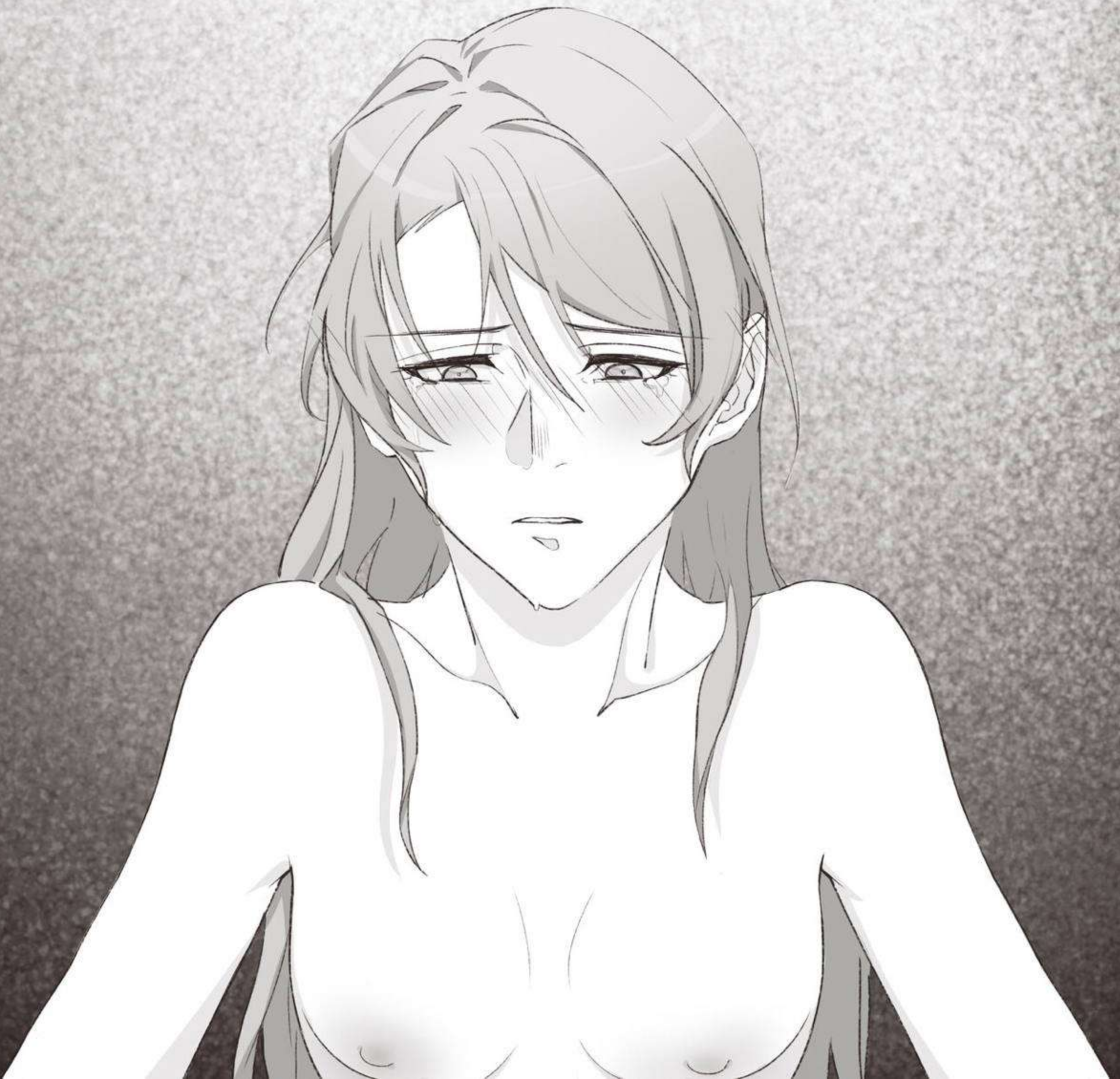
これは夢なら

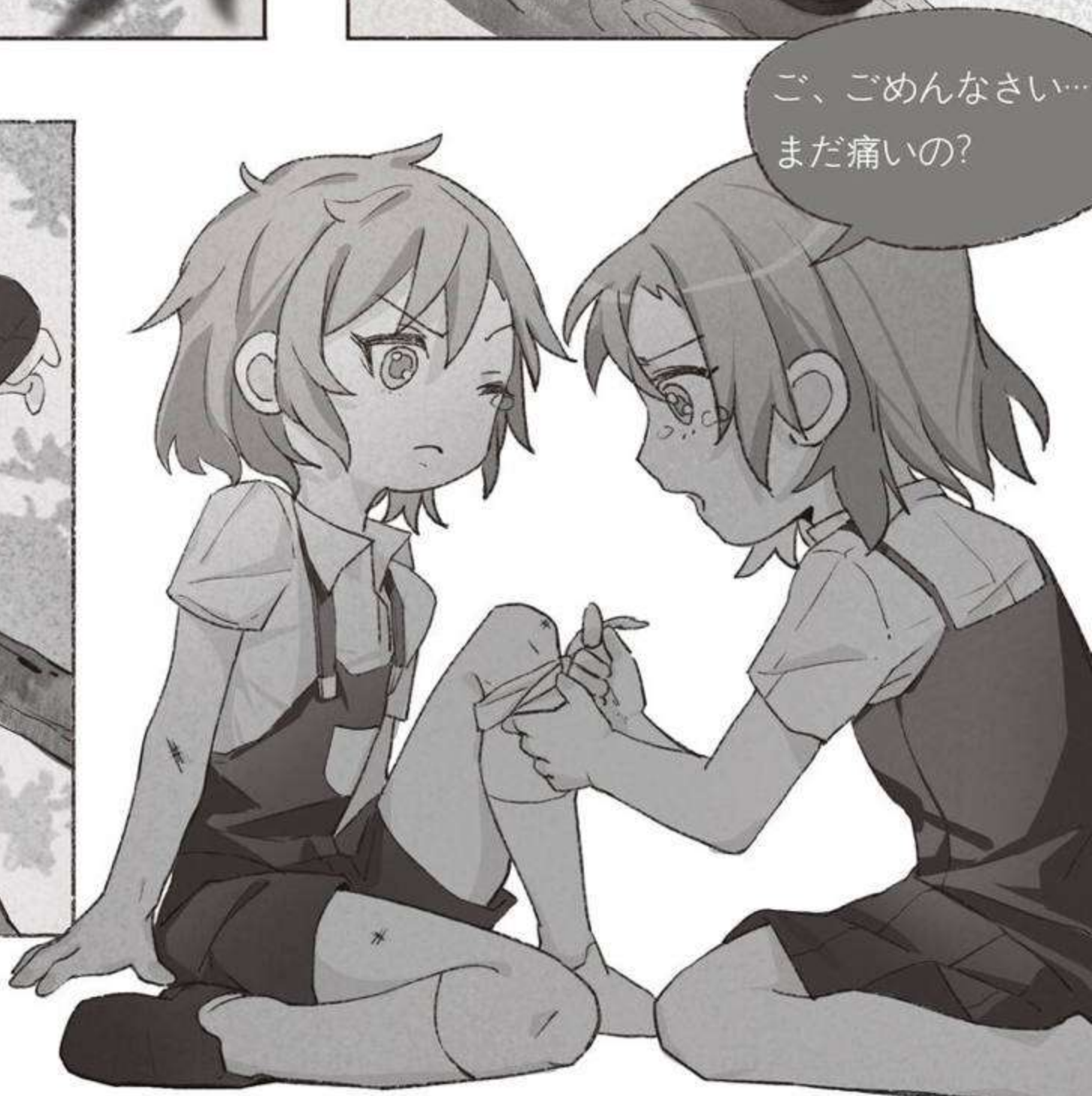
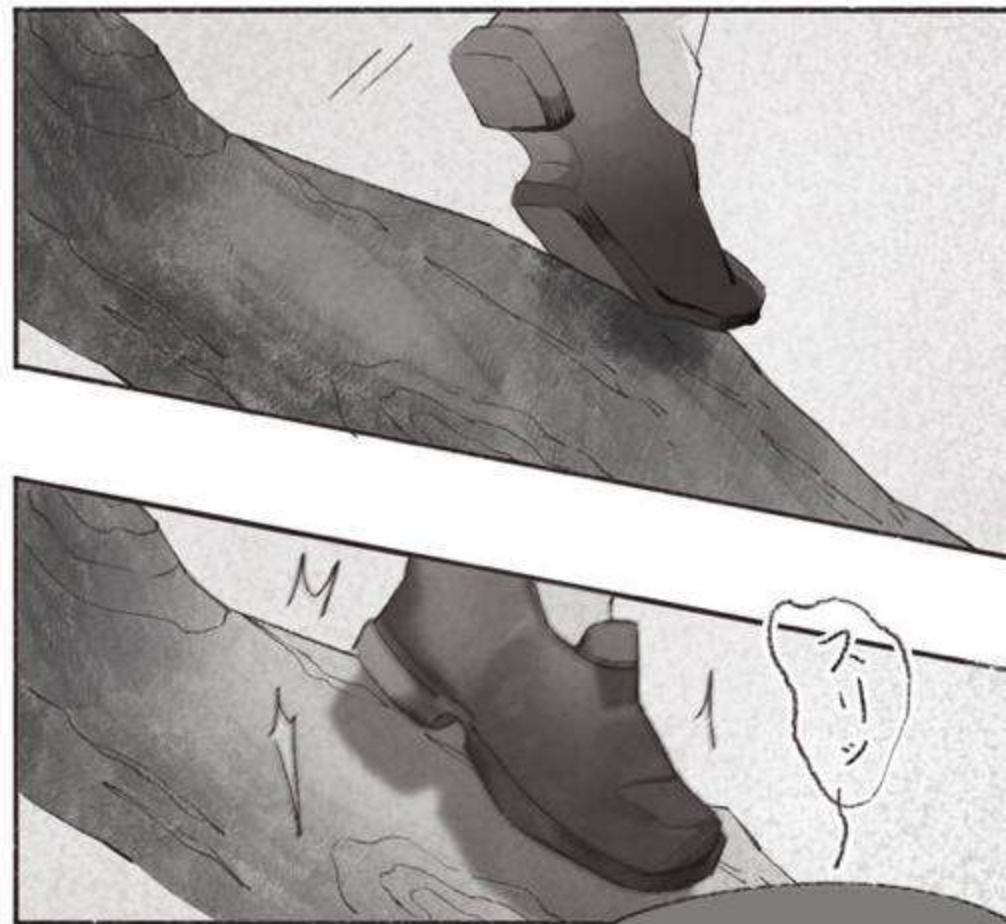




↓
じゃあなぜ……

おねーちゃんが泣いているの





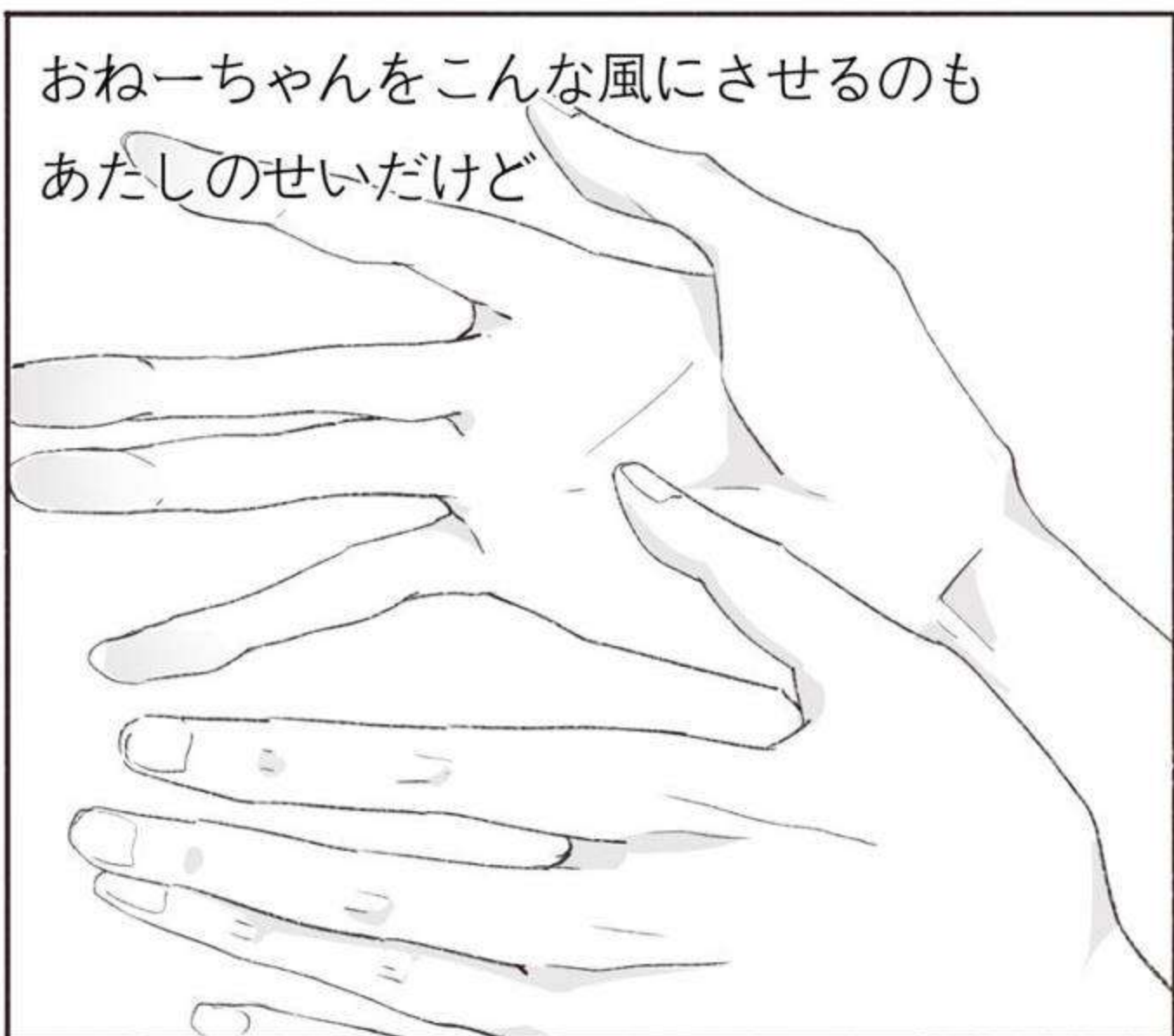


またおねーちゃんを
泣かせてしまった

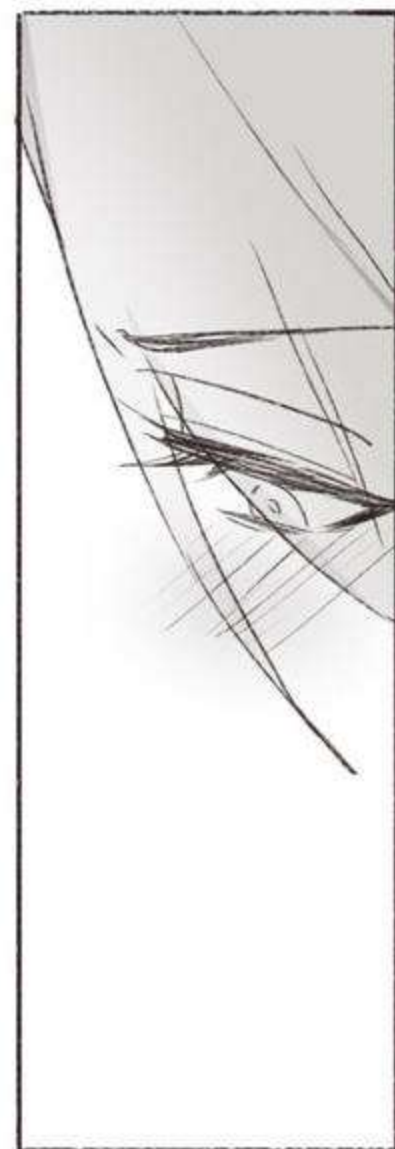
でも、違うよおねーちゃん、なんで謝るの
あたしの方がそうしたいのに



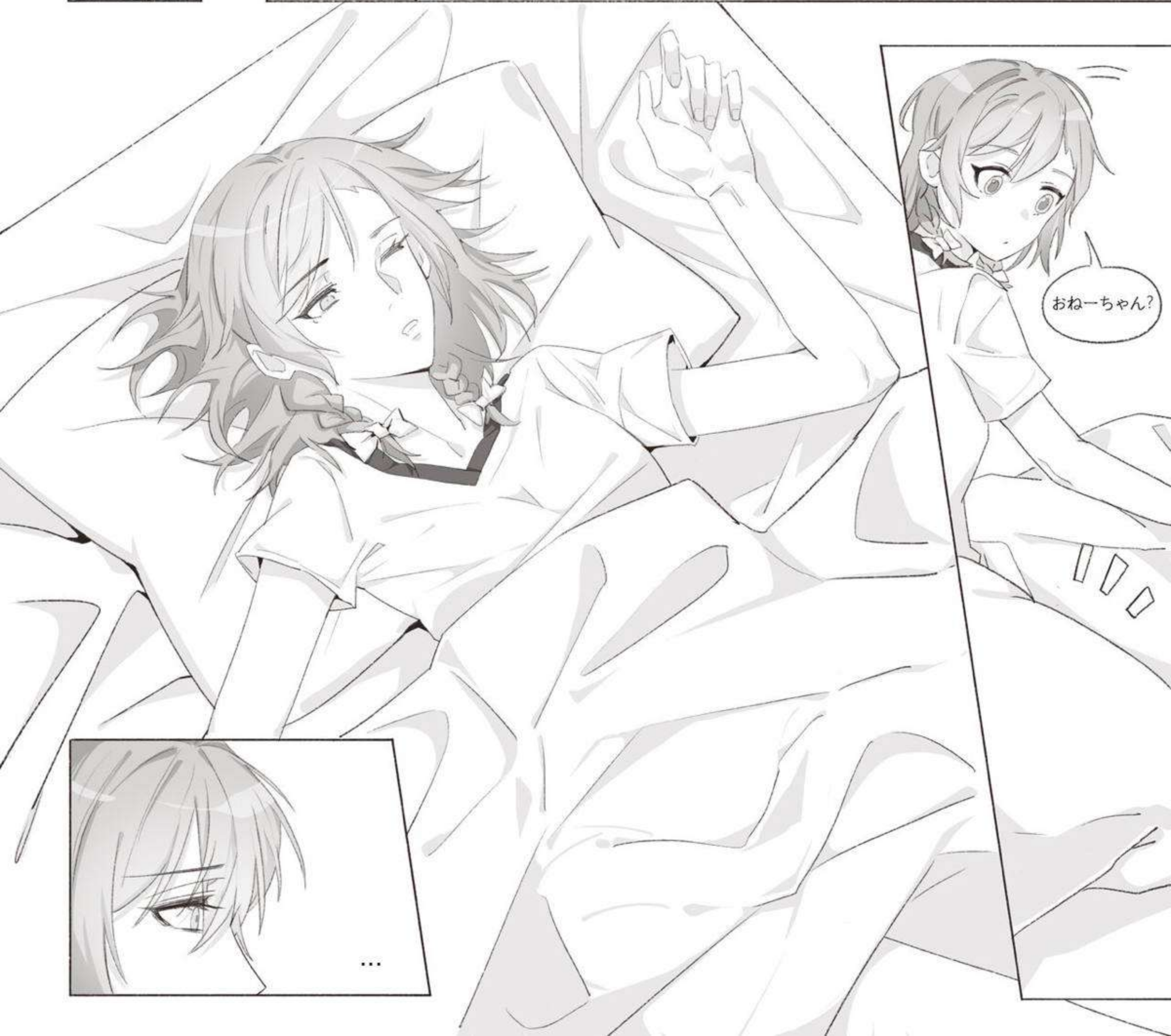
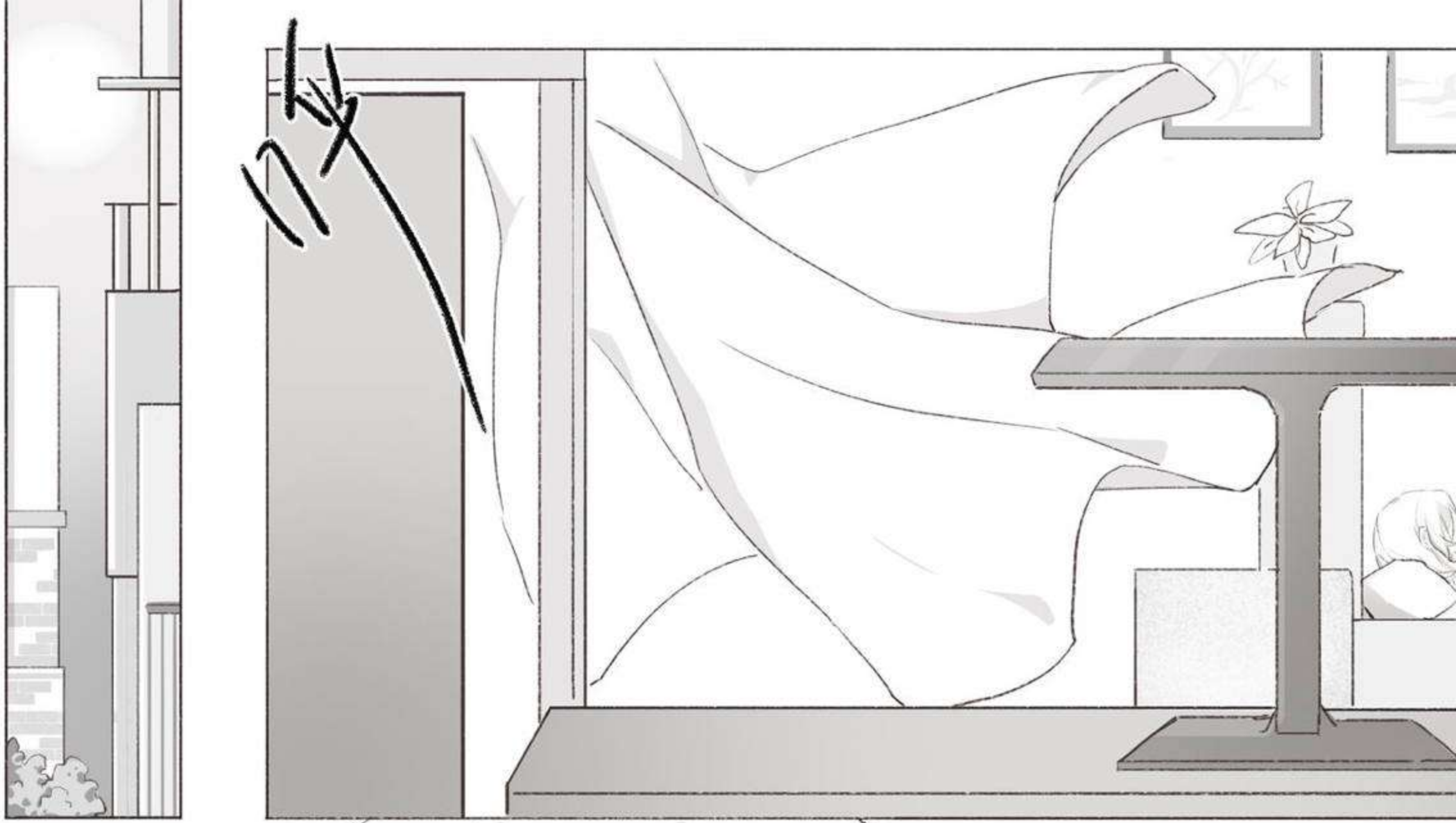
おねーちゃんをこんな風にさせるのも
あたしのせいだけど

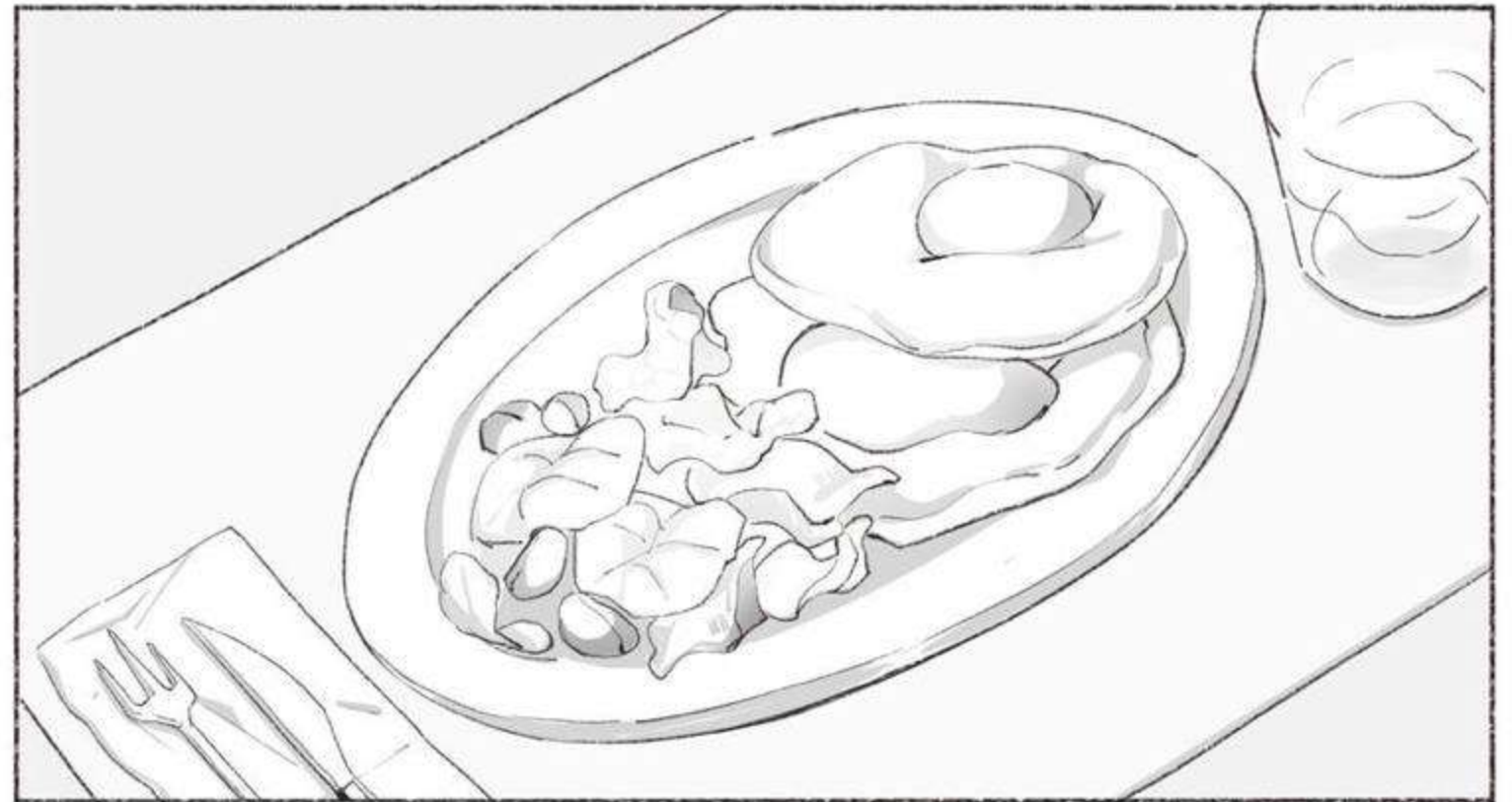
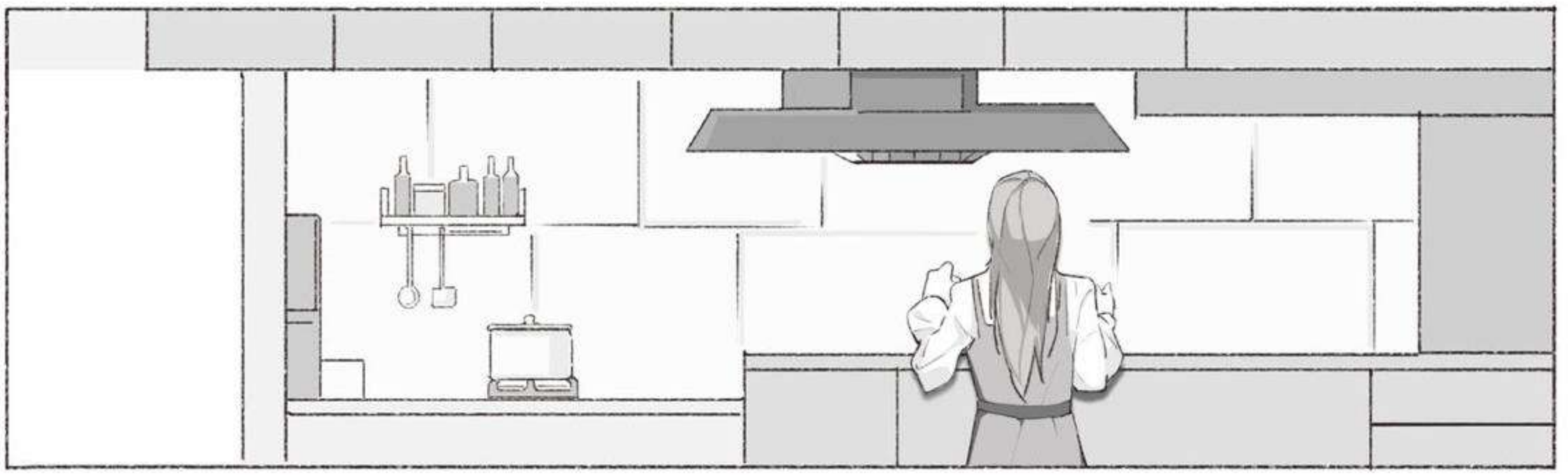


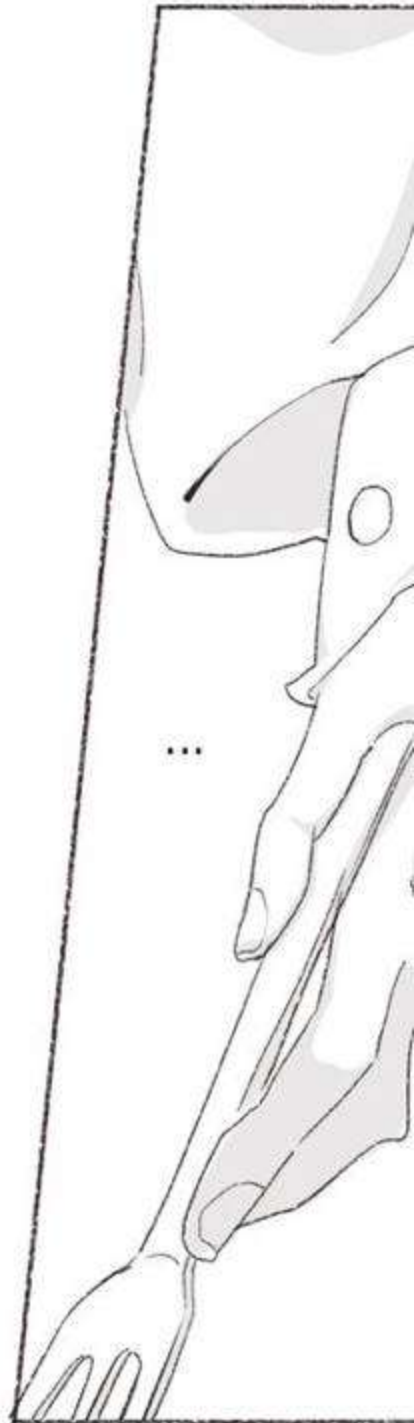
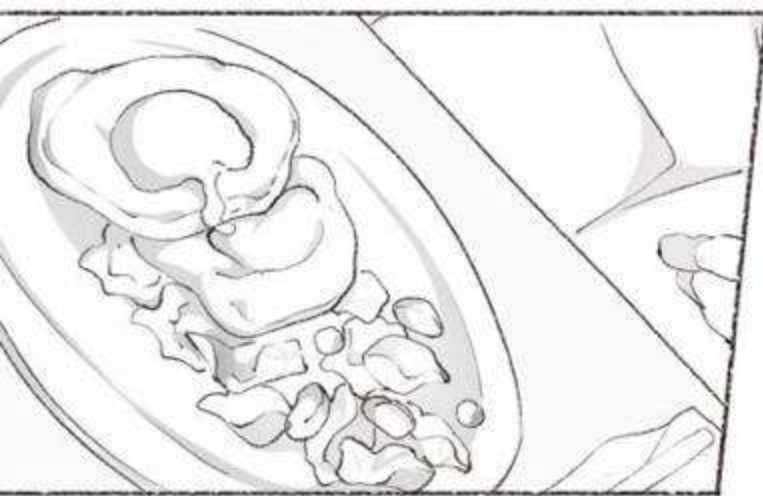
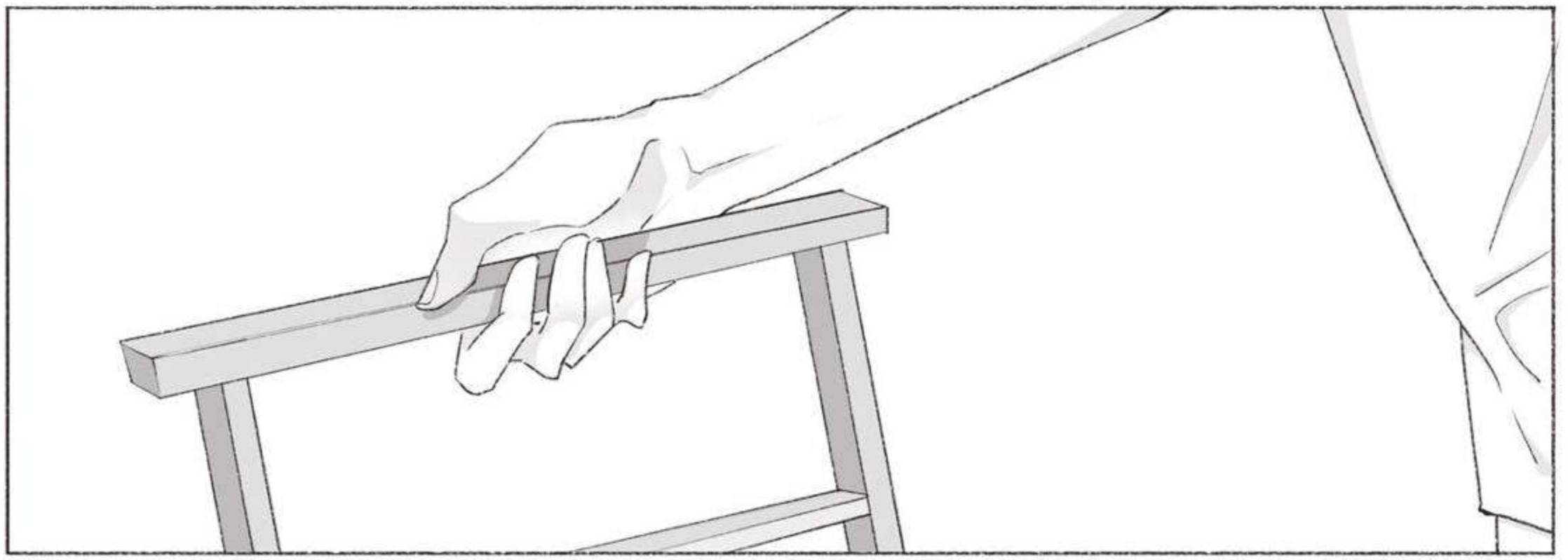
それでも…

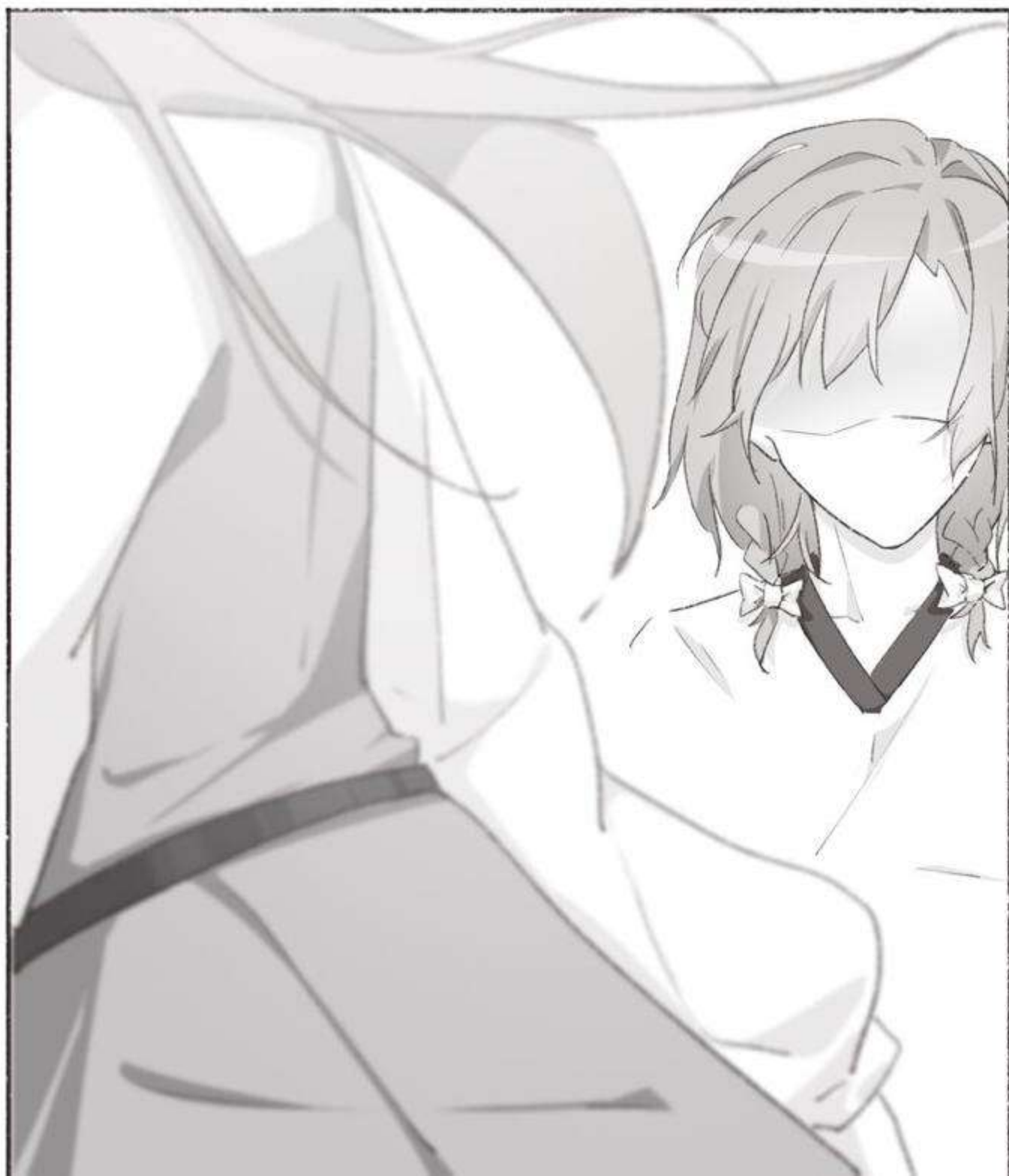


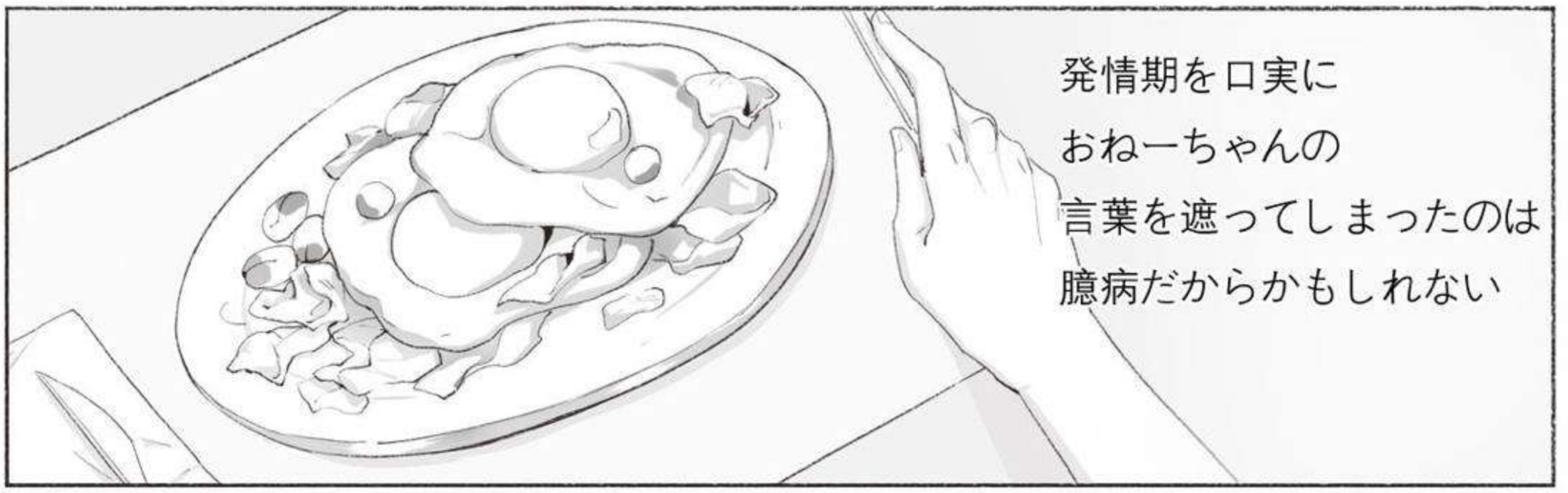












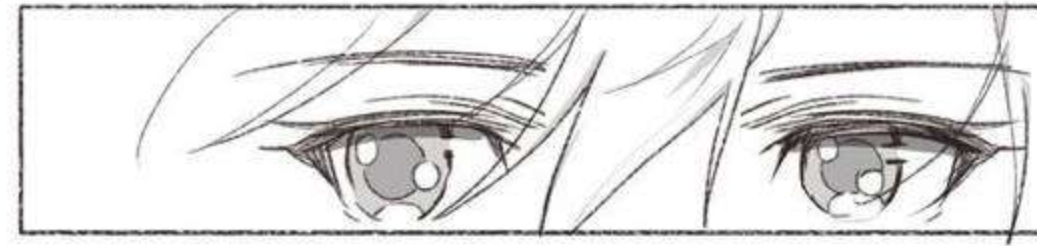
発情期を口実におねーちゃんのことを言葉で遮ってしまったのは臆病だからかもしれない



もし言われたのが



『昨日のことを忘れてください』
みたいなことだったら……

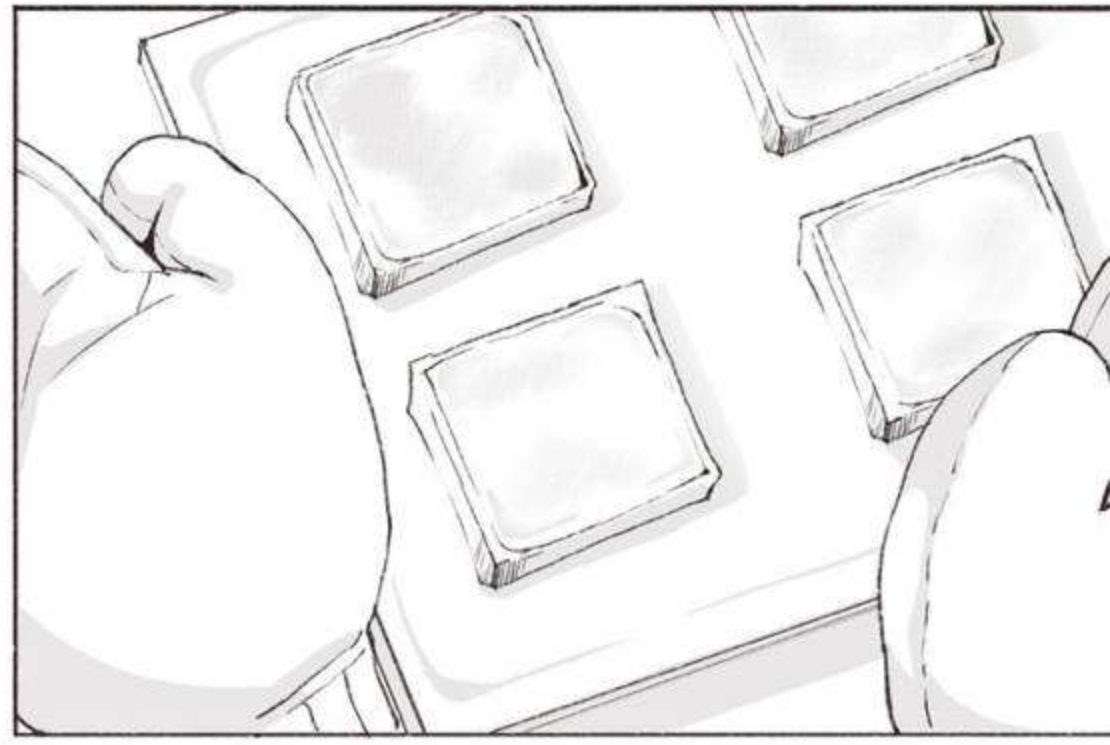


ああ



??

...



。。
また日菜の優しさに甘えて逃げた



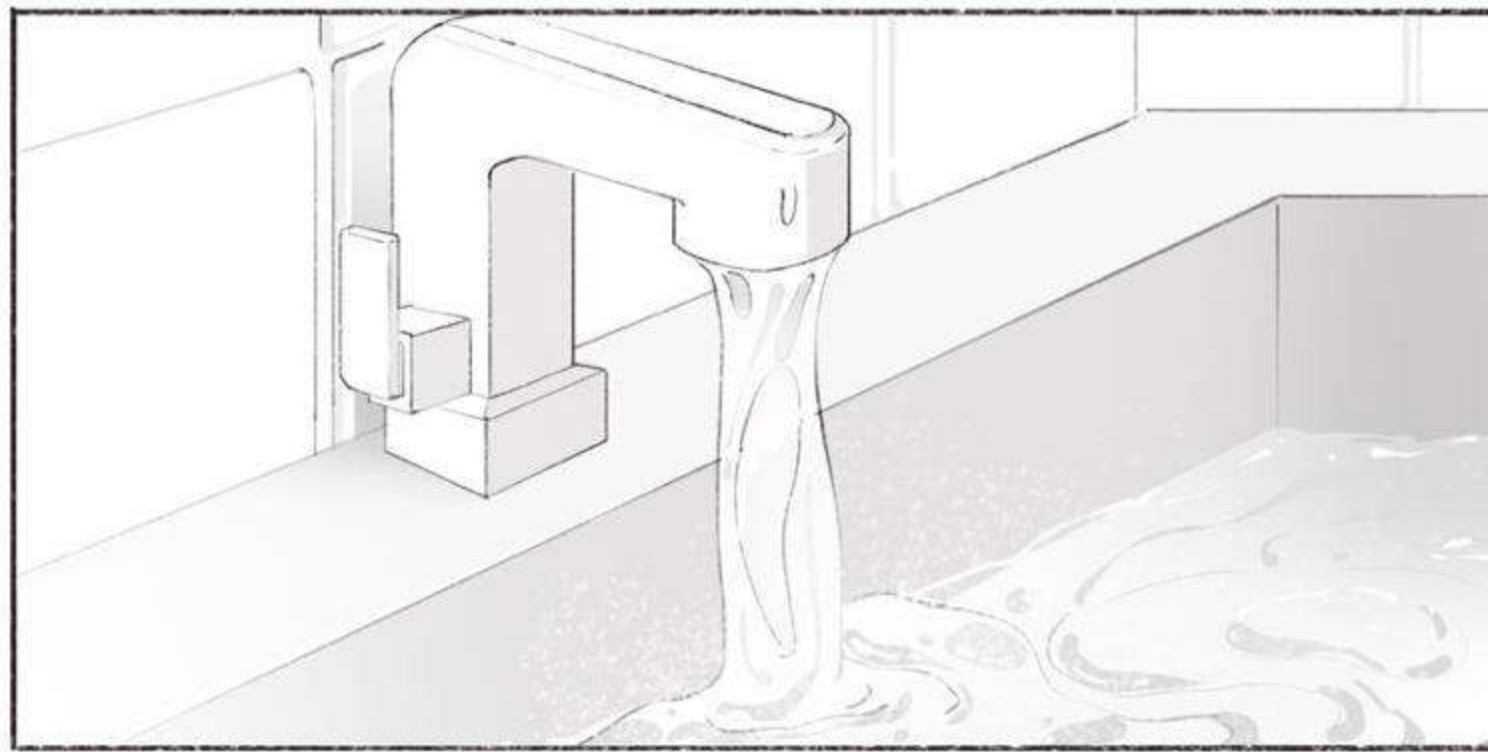
あの子にとって
昨夜はたぶん単純に
 α が Ω を助ける行為に
考えられたのでしょう



でも私にとっては



心臓の速い鼓動
止まらない
名前さえ知れぬ感情は
水のように流れて



掴まられない

まだその感情の色を知らず

けど次の瞬間





私
あたし
はまた……
あの子
おねーちゃん
と緒にその中に沈むのかな